

ダイソー株式会社

化学でもっといいこと

Something Better with Chemicals

2011年3月期 上半期決算説明会

2010年12月8日

<目次>

- ・上半期の成果と実績
- ・下半期の重点施策と通期見通し
- ・研究開発とトピックス

ダイソー株式会社

(東証・大証第一部: 4046)

化学でもっといいこと。



上半期の成果と実績

**売上高：14%増、上半期純利益：3倍
損益分岐点比率：87%⇒74%へ13%低下**

第一次中計から取り組んだ重点施策

コモディティからスペシャリティケミカルへ

機能化学品事業への重点的投資

- ・生産能力増強（高機能性樹脂、合成ゴム、医薬品原薬・中間体など）
- ・M&Aの実施（有機化学商社、医薬品原薬・中間体、金属電極など）
- ・海外展開の拡充（ドイツ、アメリカ、中国、タイに拠点）

リーマン・ショックへの対応策：全社コスト削減 24億円

（固定費：18億円 変動費：6億円）

競争力強化のためのコスト低減投資：20億円

09年度より継続的に実施 ⇒ 次期から本格的に寄与

営業利益：機能化学品13億円と基礎化学品に並ぶ
売上高：23%増、営業利益：12.5倍(+12億円)

生産・販売の増加による利益増：+8億円

- ・欧州・新興国向け自動車生産台数の増加を背景に合成ゴムを拡販
- ・電子材料(液晶関連部材)の拡販
- ・医薬品原薬・中間体の新規大型案件の事業化
- ・アジア営業強化(ダイソーケミカルのネットワーク活用、タイ事務所開設)

+

コストダウンによる効果：+4億円

年間計画達成に向け順調に推移

(単位:百万円)	10/3 2Q	利益率	11/3 2Q	利益率	前期比		11/3 計画
	A		B		B-A	増減率	
売上高	34,427	—	39,041	—	+4,613	+13.4%	77,000
営業利益	901	2.6%	2,142	5.5%	+1,240	2.4倍	4,100
経常利益	979	2.8%	2,252	5.8%	+1,273	2.3倍	4,300
四半期純利益	437	1.3%	1,278	3.3%	+841	2.9倍	2,100

機能化学品の構成比が過去最高の37.4%に伸張

⇒ アジアを中心に自動車・電子材料向け積極的拡販が寄与

(単位:百万円)

	10/3 2Q	構成比	11/3 2Q	構成比	増減額	増減率
基礎化学品	16,688	48.5%	18,584	47.6%	+1,896	+11.4%
機能化学品	11,913	34.6%	14,607	37.4%	+2,694	+22.6%
住宅設備ほか	5,825	16.9%	5,848	15.0%	+23	+0.4%
合計	34,427	100.0%	39,041	100.0%	+4,613	+13.4%



2011年3月期上半期売上高増加要因(+46億円 前期比+13.4%)⁷

基礎化学品 エピクロルヒドリン：エポキシ樹脂業界の需要増に伴い積極的営業を展開

機能化学品 電子材料：台湾・中国のアジアネットワークを活用した機動的な営業を推進
 エピクロルヒドリンゴム：海外の自動車部品メーカー向け拡販
 アリルエーテル：電子部品向けシランカップリング剤の海外営業を強化

基礎化学品 +19億円

エピクロルヒドリン	+12
塗料原料ほか	+6
クロール・アルカリ	+1

機能化学品 +27億円

電子材料	+7
エピクロルヒドリンゴム	+5
アリルエーテル	+4
金属電極	+3
医薬品原薬・中間体	+3
ダップ樹脂	+2
省エネタイヤ用改質剤ほか	+3

アジア：中国・台湾・韓国で電子材料(液晶関連部材)を拡販

欧州：ドイツを中心に自動車向けエピクロルヒドリンゴムの販売数量が大幅増加

米国その他：米国でのアリルエーテルの拡販

(単位:百万円)	10/3 2Q	11/3 2Q	増減額	増減率
ア ジ ア	2,696	3,219	+523	+19.4%
欧 州	1,184	1,556	+371	+31.4%
米 国 そ の 他	709	1,093	+383	+54.1%
合 計	4,590	5,869	+1,278	+27.8%
海外売上高比率	13.3%	15.0%	-	+1.7%

事業構造：基礎化学品⇒機能化学品へ

(単位:百万円)	10/3 2Q	11/3 2Q	増減額	増減率
基礎化学品	1,117	1,341	+223	+20.0%
機能化学品	105	1,308	+1,203	12.5倍
住宅設備ほか	88	40	▲47	▲54.0%
小計	1,312	2,691	+1,379	2.1倍
配賦不能費用	▲410	▲549	▲138	—
合計	901	2,142	+1,240	2.4倍



機能化学品事業拡大で営業キャッシュ・フローは実質増加
有利子負債が大幅に減少

(単位:百万円)

キャッシュ・フロー計算書	10/3 2Q	11/3 2Q	増減額
現金・現金同等物期首残高	4,437	6,522	+2,085
営業活動キャッシュ・フロー	2,301	1,906	▲395
(除く還付税金: 509)	1,792	1,906	+114
投資活動キャッシュ・フロー	▲1,156	▲551	+605
フリー・キャッシュ・フロー	1,145	1,355	+209
財務活動キャッシュ・フロー	▲894	▲1,386	▲492
現金・現金同等物期末残高	4,682	6,425	+1,743

有利子負債・D/Eレシオ	08/3	09/3	10/3 2Q	10/3	11/3 2Q
有利子負債	17,030	16,070	15,510	13,950	12,890
D/Eレシオ	0.5	0.5	0.5	0.4	0.4

下半期の重点施策と通期見通し

1.機能化学品事業の一層の拡大

(1)医薬品原薬・中間体事業の強化

- ・9月：(株)食品バイオ研究センターを買収(12月：サンヨーファイン(株)へ吸収合併)
⇒シアル酸事業(インフルエンザ治療薬原料)の一貫生産・販売体制の確立
- ・新規大型受託案件の獲得

(2)電子材料事業の強化

- ・液晶用カラーフィルターレジストの台湾・中国・韓国への販売強化
- ・リチウムイオンキャパシタ電池用集電体製造設備稼働(11月)

(3)新興国への海外展開の拡充

- ・タイ事務所：東南アジア市場への技術サポート体制の強化
- ・ブラジル、インドでの事務所開設を検討中

2.グローバル競争に対応したコスト削減への取り組み

- ・省エネ型電解槽の導入検討
- ・プロセス改善・生産および収率のアップ
- ・低コストを追求したグレード改良

利益は対前年度比倍増へ

(単位:百万円)	10/3		11/3		増減額	増減率
	実績	利益率	計画	利益率		
売上高	72,404	—	77,000	—	+4,596	+6.3%
営業利益	2,188	3.0%	4,100	5.3%	+1,912	+87.4%
経常利益	2,185	3.0%	4,300	5.6%	+2,115	+96.8%
当期純利益	947	1.3%	2,100	2.7%	+1,153	2.2倍

為替・ナフサ価格の下期前提条件

- ※最高売上高 782億円 (08/03期)
- ※最高経常利益 4,532百万円(08/03期)
- ※最高純利益 2,489百万円(08/03期)

1. 為替レート
(1)ドル 85円/\$ (2)ユーロ 110円/EUR
2. 国産ナフサ価格 45,000円/kl

機能化学品：二桁増収を達成する見通し

(単位:百万円)	10/3		11/3		増減額	増減率
	実績	構成比	計画	構成比		
基礎化学品	34,689	47.9%	36,000	46.8%	+1,311	+3.8%
機能化学品	25,959	35.9%	28,800	37.4%	+2,841	+10.9%
住宅設備 ほか	11,755	16.2%	12,200	15.8%	+445	+3.8%
合計	72,404	100%	77,000	100%	+4,596	+6.3%

機能化学品の利益が基礎化学品を「上回る」

(単位:百万円)	10/3	11/3 計画	増減額	増減率
基礎化学品	2,574	2,420	▲154	▲6.0%
機能化学品	573	2,600	+2,027	4.5倍
住宅設備ほか	14	80	+66	5.7倍
小計	3,162	5,100	+1,938	+61.3%
配賦不能 営業費用	▲973	▲1,000	▲27	—
合計	2,188	4,100	+1,912	+87.4%



設備投資額・研究開発費の見通し

設備投資額：機能化学品の主力製品、コスト低減、電子材料などを中心に投資

- ・無機化学製品増設(尼崎・小倉)
- ・アリエーテル増設(松山)
- ・リチウムイオンキャパシタ電池用集電体製造設備新設(尼崎)
- ・エピクロルヒドリンゴム増設(水島)
- ・医薬品原薬・中間体設備増設(松山)
- ・アリルクロライド、エピクロルヒドリンなどの生産性向上

研究開発費：コア事業の技術支援

・エネルギー・環境、電子材料、ライフサイエンスの3分野に重点配分

(単位:百万円)	09/3	10/3	11/3 計画	増減
設備投資額	4,614	2,040	3,500	+71.6%
減価償却費	3,448	3,386	3,100	▲8.4%
研究開発費	1,737	1,570	1,800	+14.6%

安定配当を持続 : 11年3月期は年6円を計画

	10/3予定	11/3予想
通期	6円	6円
中間	3円	3円
期末	3円	3円
配当性向	69.8%	31.0%

化学でもっといいこと。



研究開発とトピックス

エネルギー・環境

エコキュート用全固体リチウム電池開発進み寿命2倍に
リチウムイオンキャパシタ用部材を尼崎工場で年内製造開始

電子材料

無線ICタグ用基板開発終了・関連会社から販売中
スマートフォン用静電容量式タッチパネル部材開発進み、海外メーカーにも紹介

ライフサイエンス

食品バイオ研究センターを譲受しインフルエンザ治療薬の原料シアル酸製造開始
抗ウイルス薬、抗血栓薬、カルシウム吸収促進剤など順調に製品化
抗癌剤、筋疾患治療薬は償却済み設備で製造

主な研究パイプライン: 製品化案件が着実に増加

 製品化済み案件

	コア事業の技術支援 (既存技術の応用)	エネルギー・環境	電子材料	ライフサイエンス
短期 上市目標 2010年度	<ul style="list-style-type: none"> めっき用電極新グレード OA機器向け導電ゴム新グレード 二酸化塩素商品(空間除菌剤クロサイド) アリルクロライドの収率改善 農薬原料新製法(プラント試験予定) 	<ul style="list-style-type: none"> 高エネルギー密度リチウムイオンキャパシタ用部材 	<ul style="list-style-type: none"> 無線ICタグ用基板 タッチパネル回路 	<ul style="list-style-type: none"> カルシウム吸収促進剤 医薬品原料(インフルエンザ治療薬) 抗血栓薬 美白化粧品素材(受託元、上市待ち)
中期 上市目標 2012年度	<ul style="list-style-type: none"> OA機器向け低温環境耐性静電ゴム 樹脂印刷向け高接着インク素材 高硬度精製用シリカゲル 	<ul style="list-style-type: none"> Li電池向け高分子固体電解質 赤土流出防止/緑化促進等の土壌改質用高粘性ゲル 	<ul style="list-style-type: none"> 高集積回路封止用低塩素化樹脂(ノン塩素化樹脂) 次世代ディスプレイ向け有機EL素子材料 	<ul style="list-style-type: none"> 医薬品原薬(骨粗鬆症治療薬、制癌剤など) 医薬中間体(抗潰瘍薬) 医薬中間体(抗アレルギー薬) 化粧品向け高保湿成分
長期 上市目標 2015年度	<ul style="list-style-type: none"> アリルエーテル新製法 	<ul style="list-style-type: none"> 色素増感太陽電池用電解質 	<ul style="list-style-type: none"> 次世代フィルム基板回路形成 	<ul style="list-style-type: none"> 抗体医薬精製用材料 β-グルカンの医療用途開発(止血剤/DDS)

サンヨーファイン： シアル酸関連製品の開発が順調に進展

インフルエンザ治療薬の原料シアル酸の製造

- ・ 食品バイオ研究センターの合併
 - ・ シアル酸の酵素を用いる大量生産技術の取得
 - ・ 松山工場大型医薬中間体設備の活用
- ⇒ シアル酸の一貫生産体制構築



遺伝子組換え技術の応用による糖および糖鎖合成技術

⇒ バイオ医薬品分野に積極展開

酵素技術を用いた診断薬

⇒ ユーバステック・オート(肝機能診断薬)

新生児の胆道閉鎖症スクリーニング

当社部材の特徴

- ◆ 従来のキャパシタの10倍のエネルギー密度
- ◆ リチウム電池よりはるかに大きな出力密度

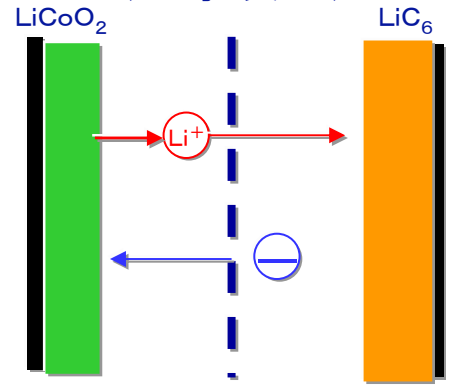
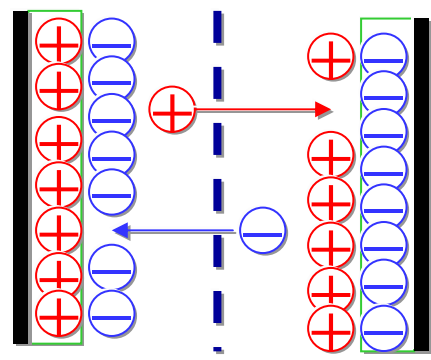


蓄電デバイス

キャパシタ
(電気二重層)

電池
(化学反応)

エネルギー密度 小
瞬時に放充電
パワー密度高



エネルギー密度 大
ゆっくり放充電
パワー密度小

<キャパシタの用途>

- EV自動車の発進時のエネルギー補助・エネルギー回生
- フォークリフト、クレーン、コピー機など瞬時にパワーを必要とする機器
- 無停電電源などバックアップ電源
- 太陽光や風力など発電量が変化する電力の蓄電



ダイソー株式会社

化学でもっといいこと

Something Better with Chemicals

- 本資料は当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。
- 本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性及び完全性を保証又は約束するものではありませんのでご了承ください。

2010年 12月8日